
研究紀要

第70集

目次

はじめに	吉川 一義	
研究概要 全体論	坂井 昇	2

考える子を育む

— 学ぶ楽しさを味わう授業 —

理論と実践

国語科	加納 篤・坂井 昇・濱名 秀晃	10
社会科	西 勝也・井南 亮佑	24
算数科	石田 美保・服部 美雪	34
理科	中前 元久・森田健太郎・岡部佐穂里	44
生活科	中川 好美	58
音楽科	徳田 典子・西村真理子・笹谷真理子	64
図画工作科	齊藤江利子・中川 佑紀	78
家庭科	馳 裕紀子	88
体育科	島貫 由郷・出嶋志津子	94
道徳	北野 美紀・太田ちはる	100
英語	乗富 智子	110
情報教育	杉森 慎一	116

おわりに	的場 茂樹	
------	-------	--

平成28年(2016年)11月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校

はじめに

本校は、2年前より「考える子を育てる」を主題として学校研究をはじめ、その成果を積みつつ「学ぶ楽しさを味わう授業」に焦点化した検討を進め、3年目の今年には総括の年を迎えます。考えて学ぶことを「育ち」の中核とし、この実体を個人と他者、物との相互作用に見だし、その原動力を「楽しさ」という情動的側面に求めてきました。

我々は生活事象に出合って何らかの意味を取り出し、この意味に従って行動します。取り出した意味はそれまでの生活履歴から得てきた知識に依存します。したがって、知識内容の持ちようによっては、同じ事象に出合っても個々人が得る意味には違いが生じ、結果として判断・行動に作用します。知識の得方として、我々は一般化された情報の形で知識を受け取り（知る）使う、あるいは、経験から得てきた知識（知っていたこと）を通してかかわり、その結果のうちの気付いたことにもとづいて「知っていたこと」に修正・更新を加えて「わかる」状態に至ると思われまます。この過程で、他者との交流による「試行錯誤」は学びに多様さを与えて知ることを発展させるだけでなく、「みんなは、こういうことを承認する」ことを知って自己の思考・判断・行動に価値を与えます。この営みによって、生活世界に対する「自分にとっての意味・価値の世界」を再構成していくと思われまます。その上で、子どもがこの営み自体をも自分に即して評価して価値(学ぶ原動力)を見出すことに期待しています。

このような視座をもって本校研究の関心は、子ども達が「生活世界」の事象から学んで、事象に対する「自分にとっての意味・価値の世界（内面）」を再構成すること。そして、再構成した意味・価値の世界（内面）をもって生活世界で行動すること。この往還による「育ち」の捕捉にあります。これら各次元での相互作用と次元間の往還の実体を子どもの具体の言動から可視化し、良循環へと導くための教師による意図的な介入について明らかにすることを目指しています。そのためにも、今年度は子どもの学習過程とそれを見取る教師自身の省察を自覚的に捕捉してこれをも含めた相互作用を追究してきました。

このような視座とそこから得られた知見について、どうぞ、皆様には忌憚のないご批判、ご意見、ご教示を賜りたいと思います。それを踏まえて、本校教育の次への発展に向けた努力を重ねて参りたいと考えています。

最後に、いつも本校の研究を支えてくださる多くの皆様にご心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご支援とご教示を賜りますようお願いして、巻頭の言葉といたします。

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校

校長 吉川 一義